

梅雨が明けて本格的な夏になる「小暑」。2024年の「小暑」は7月6日です。

本格的な暑さが到来する前の頃。まだ多くの地方では、暑さより梅雨明けが待ち遠しい時期ですが7月中旬を過ぎると南から北に向け一気に夏が駆け上がります。

＜小暑の時期を示した有名な一句＞

夏草や 兵（つわもの）どもが ゆめの跡（あと） 松尾芭蕉

かつては合戦に夢をかけた地、今は夏草が生い茂るだけ、という意味です。

「夏草」はこの時期の代表的な季語で、夏に生い茂る抜いても抜いても生えてくる雑草。

この俳句は、芭蕉が平泉で最初に訪れた高館で詠んだ句とされています。

この高館は、平泉で自害したと言われる源義経の居館があった場所です。



高館からの景色



毛越寺にある句碑

＜小暑には全国でたくさんの祭りや神事があります。＞



①・祇園祭（ぎおんまつり）7月1日～31日

京都の夏の風物詩、祇園・八坂神社の祭礼が「祇園祭」。平安時代の869年に無病息災を祈る儀式が行われたのが起源。7月1日から1か月間行われ、最大の見せ場は、17日の先祭りと24日の後祭り。釘を一本も使わずに大工が縄のみで組み立てた山鉾33基が、それぞれ御神体を祀り京の町をめぐります。

②・博多祇園山笠（はかたぎおんやまかさ）7月1日～15日

福岡県の博多では勇ましい祇園祭が行われます。「山笠（やまかさ）」と呼ばれる山車を「おっしょい」と掛け声をかけながら担ぎ、街中を駆け抜けます。

③・那智の火祭（なちのひまつり）7月14日

和歌山県的那智勝浦町にある熊野那智大社から、年に一度、里帰りをする熊野の神々を重さ50kgもある大松明（おおたいまつ）でお迎えする祭りです。

④・入谷朝顔まつり（朝顔市）（7月6日～8日）

明治初期、東京・入谷にいた十数件の植木屋がアサガオの栽培を始め、品種改良などによって見事な花を咲かせたことが評判になり、朝顔まつりが行われるようになった。

⑤・東京・浅草寺のほおずき市（7月9日～10日）

観音様の「功德日」にほおずきを販売する縁日。ほおずきは縁起物で「鬼灯」と書き、赤い色は夏負けの厄除けになると言われ、招福の願いが込められている。浅草寺では、7月10日が一年で最大の功德日にあたり、御利益があるとされています。